



平成27年5月

新大橋は、市街地の多くの交通を担う内環状道路の中央に位置し、松江の南北を結ぶ重要な道路です。

一日に約2万台の車が行き交うほか歩行者や自転車の利用も多く、特に通学や通勤の時間帯には歩行者や自転車が溢れ、危険な状態です。

このように多くの市民が利用する新大橋ですが、建設からすでに80年以上経過し、現在の耐震基準に合わなくなっていました。

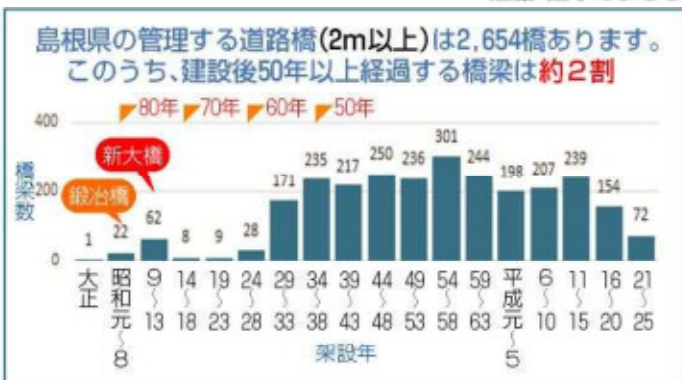
そのため、歩行者や自転車の安全性向上と、災害時の緊急輸送を考慮した耐震化などを目的とし、大橋川改修の護岸工事にあわせて架け替えることとしました。

新大橋の架け替えにあたっては、安全性、走行性、沿道への影響や工事の影響に配慮し、大橋川の水辺づくりと調和を図り、「三代目新大橋」が皆さんに親しまれる橋になるよう検討していきます。

また、同様に耐震化が必要な鍛冶橋を架け替えるとともに、交差点を改良し、歩道を整備します。



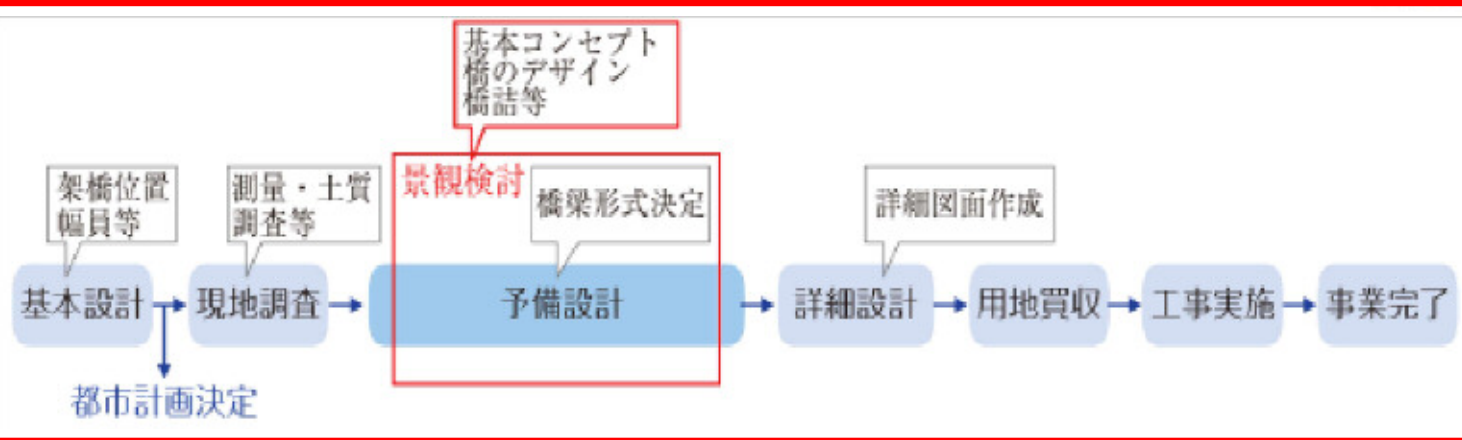
通勤・通学の様子



島根県が管理する道路に架かる2m以上の橋の数(島根県全体)



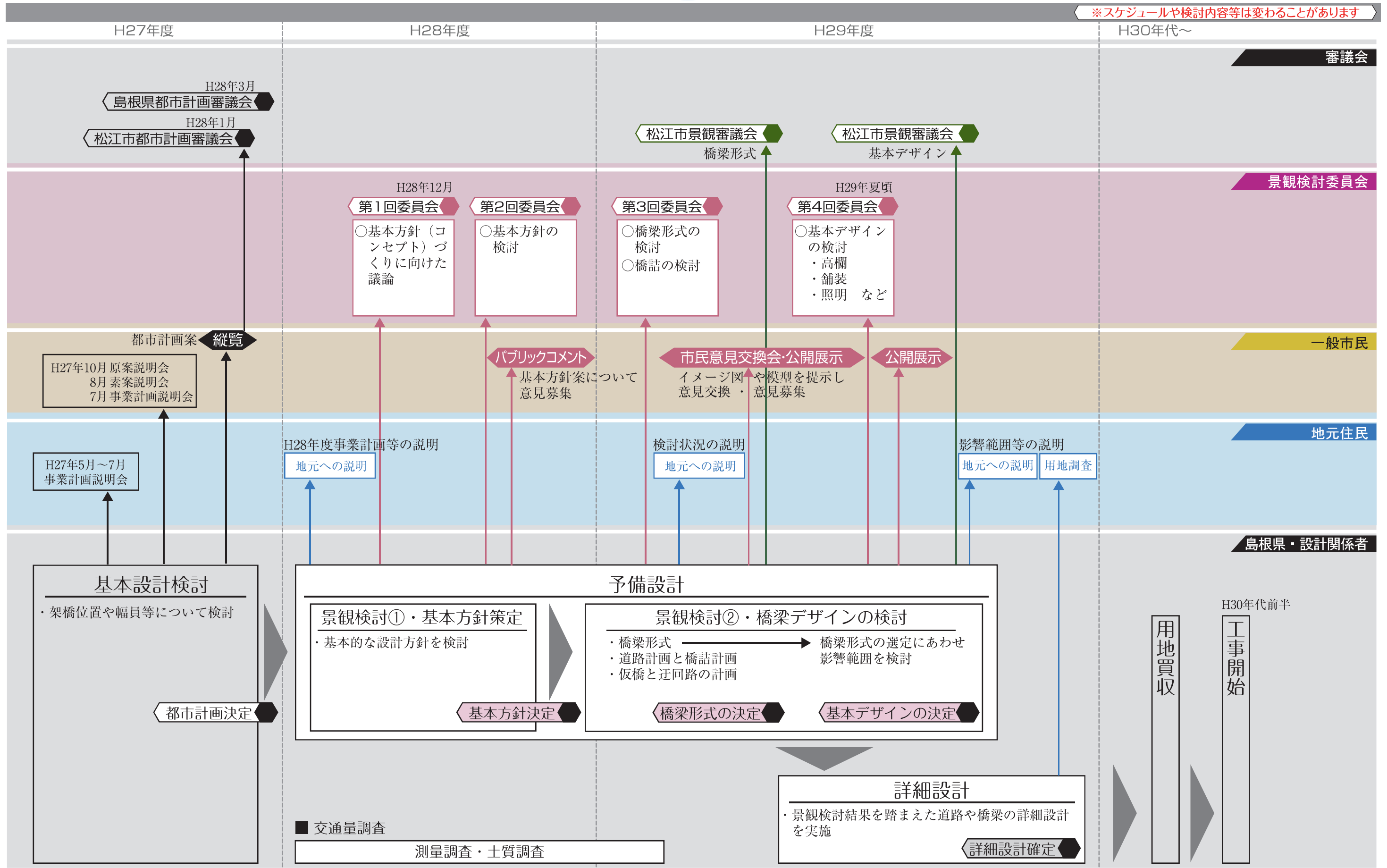
松江市街地の交通網模式図



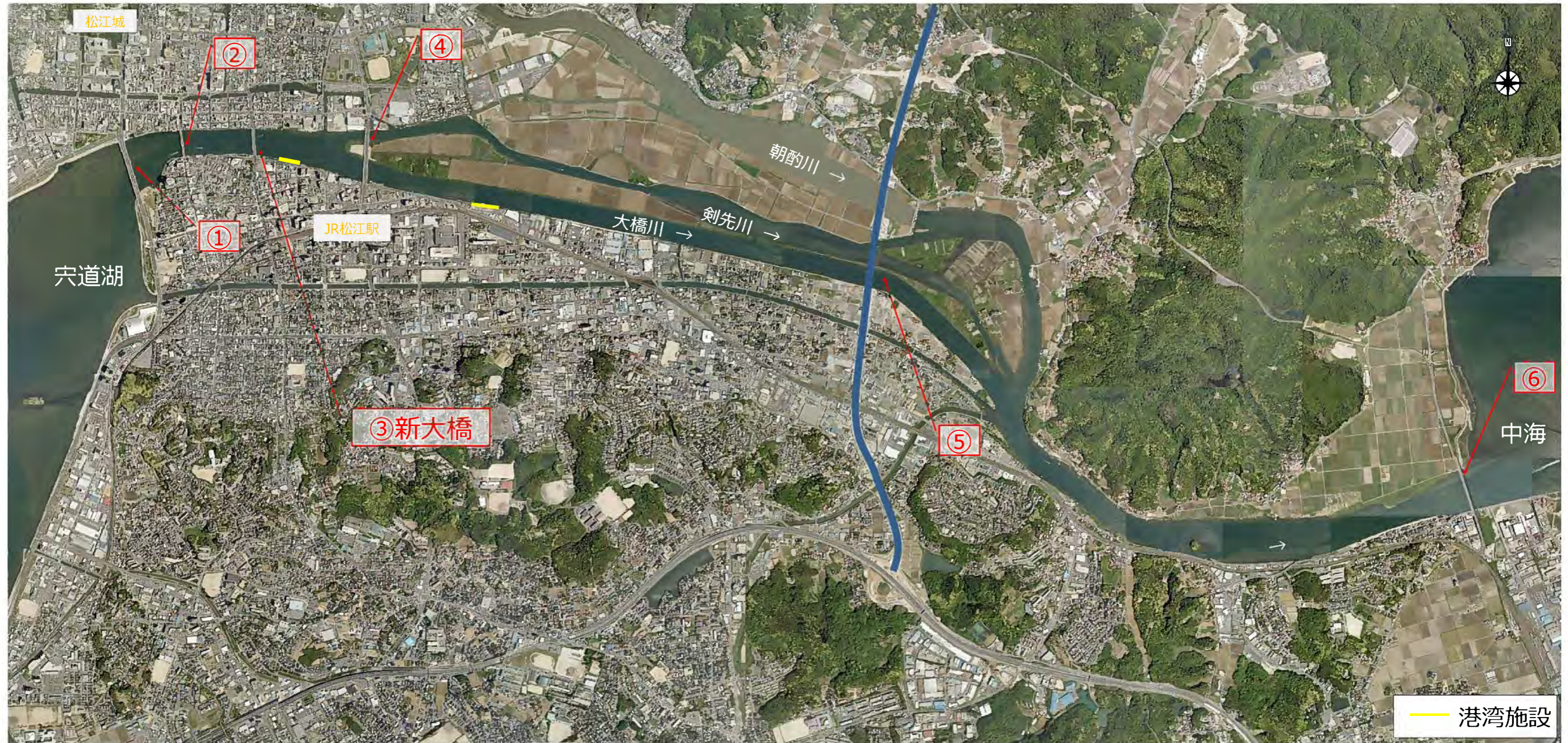
新大橋の架け替えについては、景観にも配慮した検討を行うため

- 有識者を構成員とした「景観検討委員会」を立ち上げ、意見・助言を受けることとしています
- 地元住民や松江市民のみなさんから「パブリックコメント」や「市民意見交換会」などを通じてご意見を伺います

※スケジュールや検討内容等は変わることがあります



大橋川に架かる橋



①穴道湖大橋（上流側）	①穴道湖大橋（下流側）	②松江大橋	③新大橋
 <p>竣工 橋梁形式 橋長</p> <p>1971年（架橋後：45年） 鋼5径間箱桁（塗装系） L=309.9m</p>	 <p>竣工 橋梁形式 橋長</p> <p>2002年（架橋後：14年） 鋼5径間箱桁（塗装系） L=309.9m</p>	 <p>竣工 橋梁形式 橋長</p> <p>1937年（架橋後：79年） 鋼5径間鋼桁（塗装系） L=134.0m</p>	 <p>竣工 橋梁形式 橋長</p> <p>1934年（架橋後：82年） 鋼5径間鋼桁（塗装系） L=140.6m</p>
④くにびき大橋	⑤縁むすび大橋（大橋川橋梁）	⑥中海大橋	
 <p>竣工 橋梁形式 橋長</p> <p>1981年（架橋後：35年） 鋼5径間箱桁（塗装系） L=296.0m</p>	 <p>竣工 橋梁形式 橋長</p> <p>2010年（架橋後：6年） 鋼5径間細幅箱桁（耐候性） L=372.0m</p>	 <p>竣工 橋梁形式 橋長</p> <p>1988年（架橋後：28年） PC9径間箱桁 L=555.0m</p>	

設計条件(橋の形を決める主なもの)

設計条件①【道路・橋の技術的基準】
ア)道路や附属施設の構造
イ)橋の構造

設計条件②【河川改修計画・河川構造令】
ウ)橋の設置高さ ⇒ 計画洪水位+余裕高より上に
エ)橋台の設置位置 ⇒ 河川計画断面の外に

設計条件③【航路環境確保】
カ)橋の設置高さ ⇒ 現状の高さを確保
キ)橋脚の設置間隔 ⇒ 現状の航行幅を確保



設計上の課題

設計にあたっては、上記の設計条件を踏まえ、

構造物の安全性

経済性・施工性

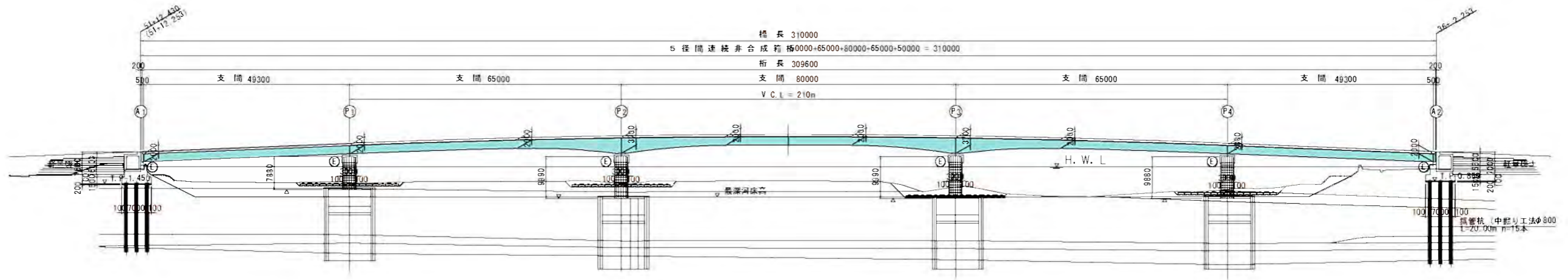
維持管理の容易さ

景観や環境との調和

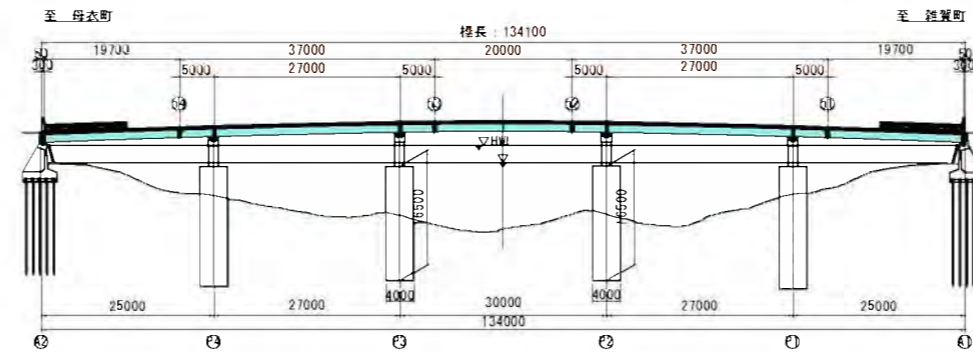
沿道影響の低減

などの観点から、総合的に検討する

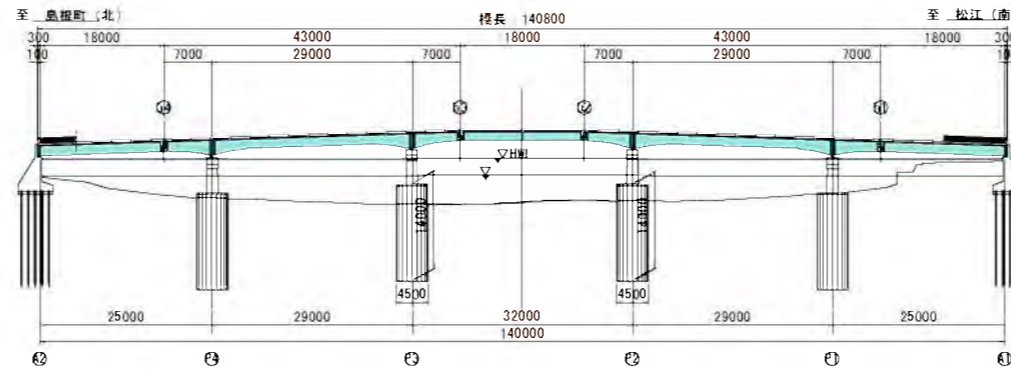
穴道湖大橋



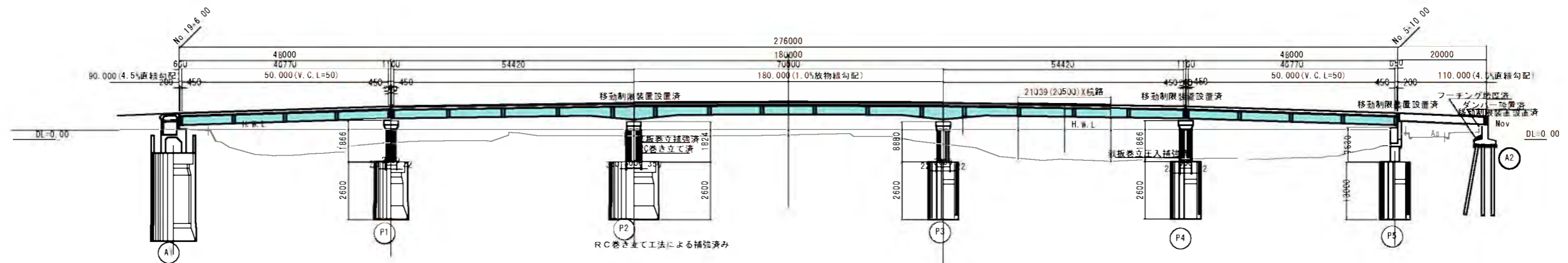
松江大橋



新大橋



くにびき大橋



新大橋を取り巻く環境

1. 歴史について

- A 松江の都市形成
- B 新大橋の変遷

2. 現況について

- C 現況の主要施設配置
- D 現況の交通状況
- E 大橋川周辺の特徴

※ 参考資料

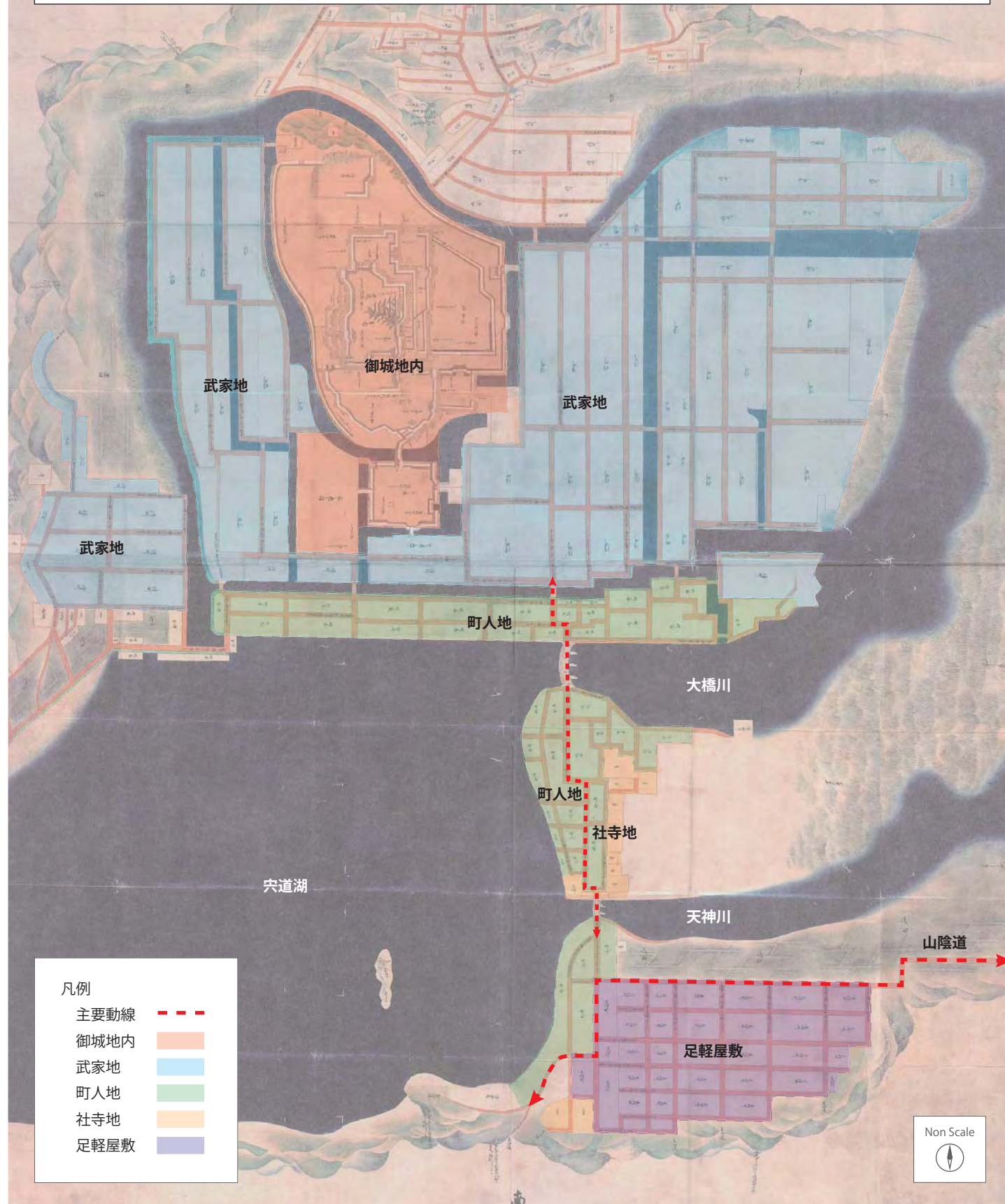
- イベント利用について
- 関連計画について



江戸期

出典：松江市史 史料編 11 絵図・地図，出雲国松江城絵図，(正保年間 1644～1648 年)

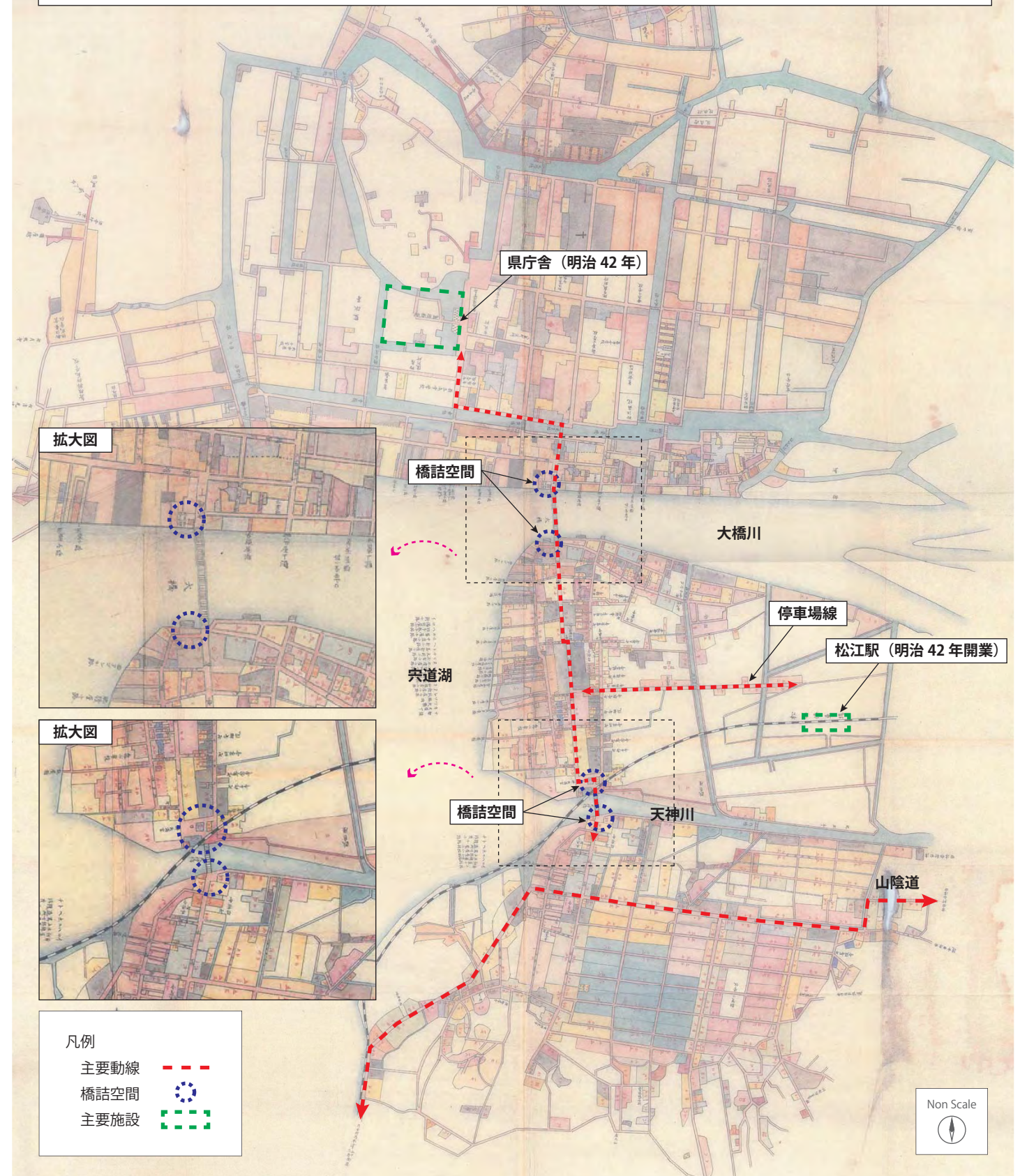
- ・関ヶ原の合戦後、堀尾吉晴により亀田山に築城、塩見繩手の大堀掘削が行なわれた
- ・城下外縁部の街道（山陰道）と城下を結ぶ南北の通りが重要な骨格となっている



明治期

出典：松江市史 史料編 11 絵図・地図，松江市宅地等級概況図，(明治 44 (1911) 年)

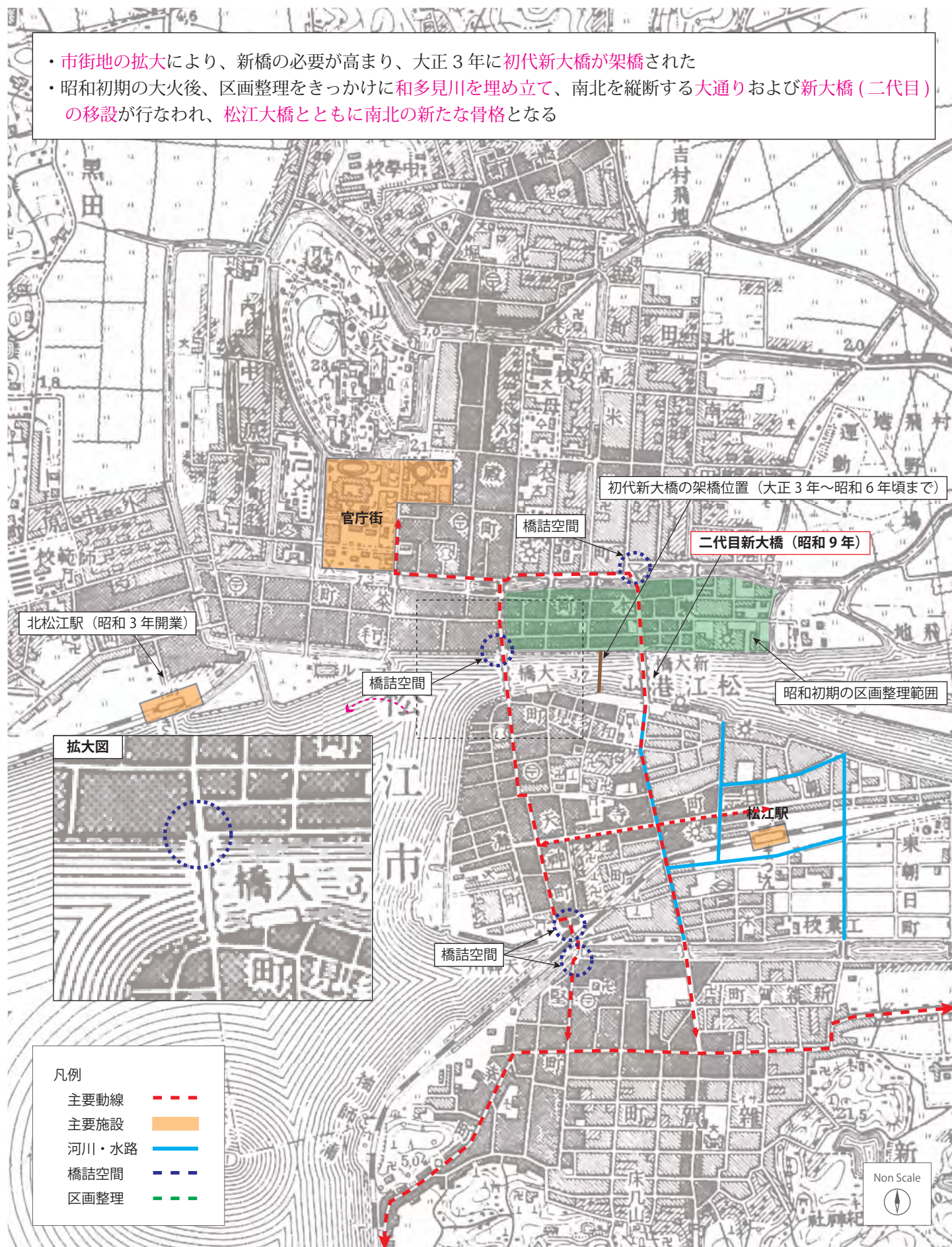
- ・山陰本線松江駅の開業や県庁舎が北三の丸に移転するなど、施設配置に変化が見られる
- ・天神川、大橋川に架かる橋の兩岸に橋詰空間が確認できる（防衛機能と城下のエントランス空間）
- ・松江駅の開業で停車場線が整備されるが、南北方向の骨格に変化はない



昭和期

出典：日本図誌大系 中国, 松江, (昭和 9 (1934) 年)

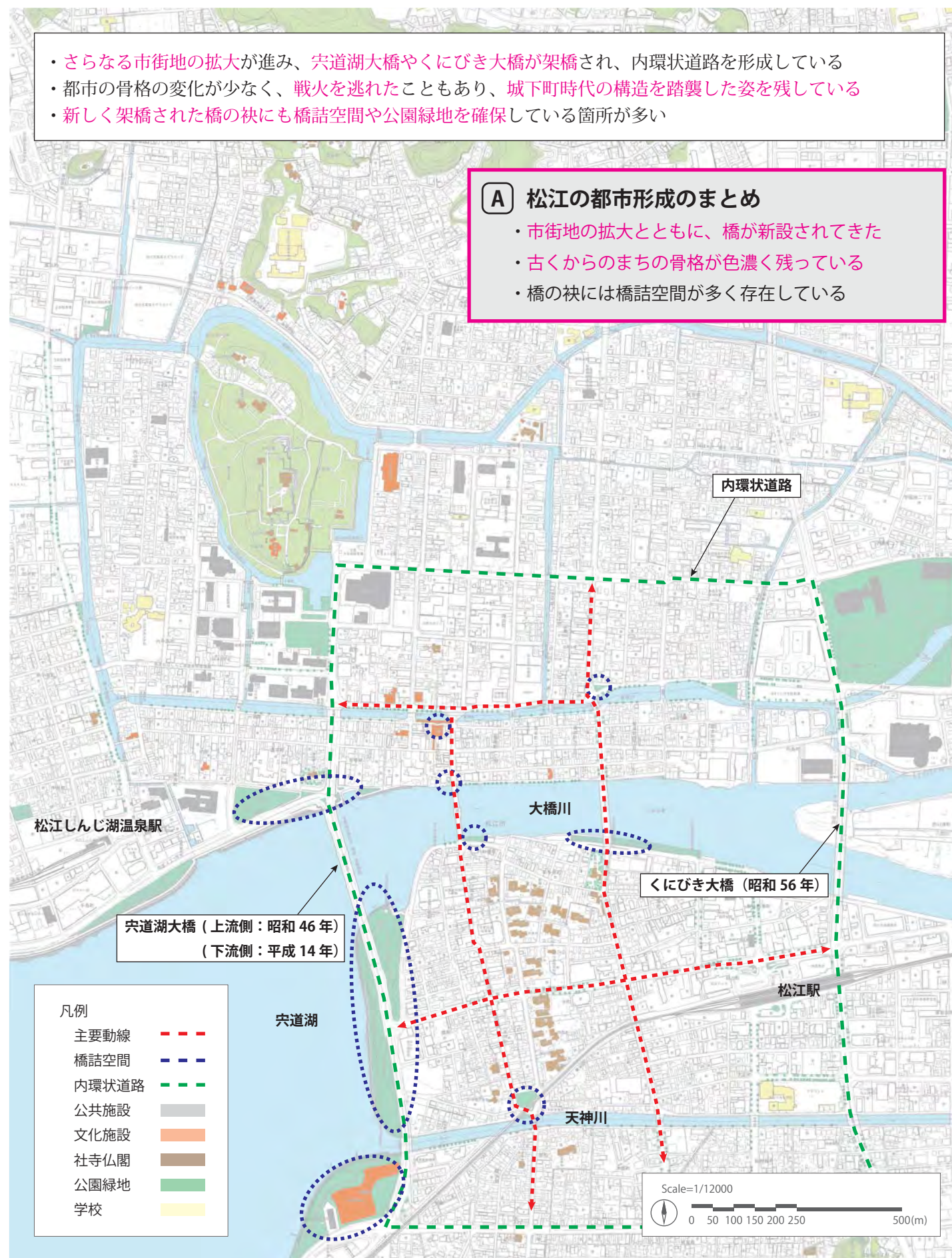
- ・市街地の拡大により、新橋の必要が高まり、大正 3 年に初代新大橋が架橋された
- ・昭和初期の大火後、区画整理をきっかけに和多見川を埋め立て、南北を縦断する大通りおよび新大橋(二代目)の移設が行なわれ、松江大橋とともに南北の新たな骨格となる



現在

出典：都市計画図 (平成 23 (2011) 年)

- ・さらなる市街地の拡大が進み、宍道湖大橋やくにびき大橋が架橋され、内環状道路を形成している
- ・都市の骨格の変化が少なく、戦火を逃れたこともあり、城下町時代の構造を踏襲した姿を残している
- ・新しく架橋された橋の袂にも橋詰空間や公園緑地を確保している箇所が多い



A 松江の都市形成のまとめ

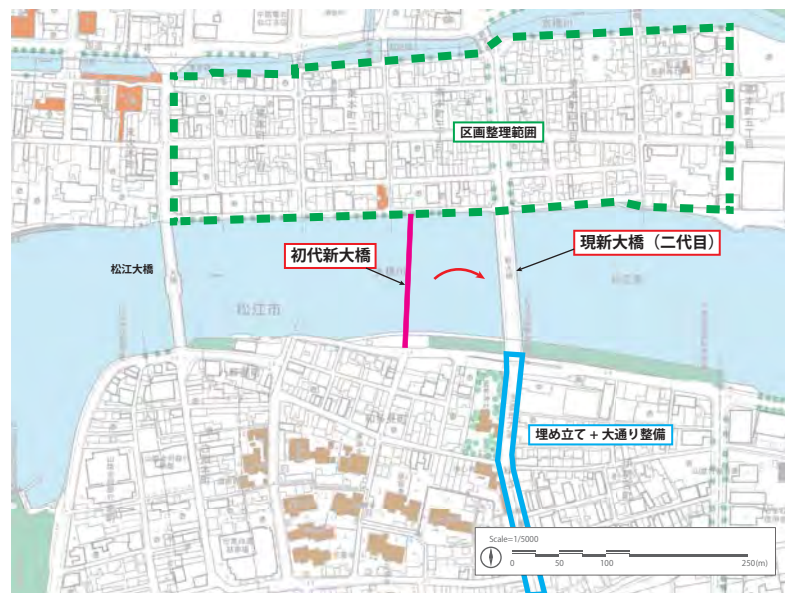
- ・市街地の拡大とともに、橋が新設されてきた
- ・古くからのまちの骨格が色濃く残っている
- ・橋の袂には橋詰空間が多く存在している

B 新大橋の変遷

- ・新大橋は初代、二代目ともに「多径間の桁橋」である。
(大橋川の他の橋も同様)
- ・いずれも低く、シンプルな橋であり、水辺ののびやかな風景を構成している。
- ・初代及び二代目（拡幅前）では、高欄や親柱、照明などが風情を感じさせるデザインである。

新大橋の架橋位置 と エピソード

- ・二代目は、昭和初期の大火（昭和 2 年白濁大火、昭和 6 年未次大火）後に行なわれた土地区画整理事業をきっかけとし、和多見川を埋め立てた大通り整備とともに架橋された。
- ・初代橋の廃材は再利用され、松江市初の市営住宅が建てられた。
(乃木町に属する馬背道路)
- ・「松江大橋もう一つほしい そんな大橋なんにする
浮世陽気で渡りたい」
(昭和初期に松江で流行した安来節の一節)



埋め立て前の和多見川

出典：松江今昔

初代 新大橋

竣工：大正 3 (1914) 年 5 月
構造：木造
橋長：146.0m 幅員：4.5m



初代新大橋開通式

出典：松江絵葉書ミュージアム

- ・初代新大橋は、大正 3 年に架けられた木造の橋梁。
- ・手摺は七寸角材が用いられ、橋の各所には照明も設置されるなど風情のある橋で、約 20 年間使われた。

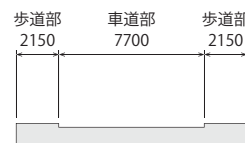


初代新大橋 (北岸上流より)

出典：松江今昔

二代目 新大橋

竣工：昭和 9 (1934) 年 11 月
構造：鋼 5 径間鉸桁
橋長：140.6m 幅員：12.0m



二代目新大橋 (売布神社より)

出典：土木図書館デジタルアーカイブス

- ・大通りの整備とともに初代よりも東側に移設。
- ・照明、親柱、橋詰の空間などが印象的。
- ・当時から水辺に近づける階段が設置されている。



二代目新大橋 (南岸上流より)

出典：土木図書館デジタルアーカイブス

二代目 拡幅工事

時期：昭和 46 (1971) 年
幅員：16.0m
(両側 2.0m ずつ拡幅)



拡幅後の新大橋 (売布神社より)

- ・拡幅は橋脚部の張出しや桁の拡幅が確認できる。
- ・拡幅により売布神社側の橋詰がほとんど消失。
- ・車道を確保するために、歩道が狭められた。
高欄や照明も標準的なものに変更となった。

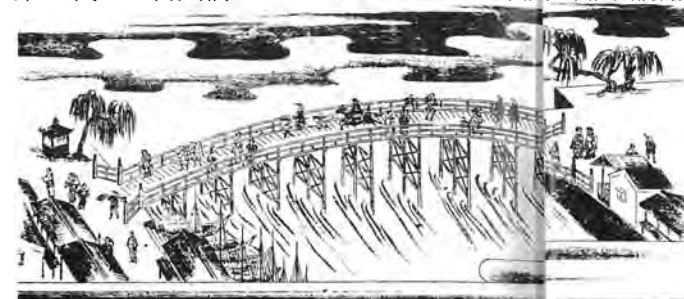


拡幅後新大橋 (南岸下流より)

概要

- ・松江大橋は慶長 13(1608)年に松江城築城のため、大橋川に架橋された橋梁。
- ・初代松江大橋以前は白潟橋やカラカラ橋と呼ばれる、前身となる橋が架けられていた記録が残っている。
- ・これまで 16 回の架け替えが行われ、現在は 17 代目である。(昭和 12 年架橋、79 年経過)
- ・橋の中央部には長さ 20m×幅 1.4m の展望台があり、高欄は岡山県産の桜御影石を用い、伝統を生かした純日本風である。擬宝珠は内藤伸のデザイン。

第 4 代 玉台大橋 出典：松江大橋物語



第 15 代 松江大橋(トラス橋) 出典：松江大橋物語



第 16 代 松江大橋 出典：土木図書館デジタルアーカイブス



第 17 代 松江大橋 出典：土木図書館デジタルアーカイブス 出典：土木図書館デジタルアーカイブス



大橋変遷一覧

出典：松江大橋物語

代	橋名	架橋年	架橋期間	備考
元祖	白潟橋	—	—	
前橋	カラカラ大橋	—	—	
初代	大橋	慶長 13 年 (1608)	28 年	富田より移城の人・馬・資材輸送の幹線道路として、「カラカラ橋」を堅固な土橋へ大改修。橋長約 154m、幅員 4.5m
第 2 代	大橋	寛永 13 年 (1636)	24 年	
第 3 代	元明大橋	万治 3 年 (1660)	25 年	この第 3 代より 14 代大橋までは普門院住職によって命名されることとなった。
第 4 代	玉台大橋	貞享 2 年 6 月 16 日 (1685)	24 年	
第 5 代	蓮台大橋	宝永 6 年 9 月 26 日 (1709)	29 年	
第 6 代	要津大橋	元文 3 年 9 月 23 日 (1738)	15 年	この第 6 代より擬宝珠が取り付けられる。南北 5m ずつ橋長が縮まり長さ 144m となる。
第 7 代	安祥大橋	宝暦 3 年 9 月 13 日 (1753)	19 年	
第 8 代	文祥大橋	明和 9 年 9 月 19 日 (1772)	13 年	
第 9 代	光雲大橋	天明 5 年 9 月 13 日 (1785)	15 年	
第 10 代	越栄大橋	寛政 12 年 8 月 3 日 (1800)	18 年	
第 11 代	速超大橋	文政元年 8 月 8 日 (1818)	18 年	
第 12 代	寛津大橋	天保 7 年 8 月 24 日 (1836)	18 年	
第 13 代	吉祥大橋	嘉永 7 年 8 月 5 日 (1854)	20 年	
第 14 代	松江大橋	明治 7 年 11 月 4 日 (1874)	17 年	
第 15 代	松江大橋	明治 24 年 3 月 (1891)	20 年	鉄脚、鉄桁、白ペンキ塗装のトラス橋。 →優美さが感じられず市民からは評判が悪かった。
第 16 代	松江大橋	明治 44 年 3 月 15 日 (1911)	26 年	
第 17 代	松江大橋	昭和 12 年 10 月 18 日 (1937)	79 年 (現在)	

C 現況の主要施設配置

C 現況の主要施設配置のまとめ

- ・発展した現在でも城下町の構造が色濃く残っている。
- ・宍道湖、大橋川、京橋川、堀川、天神川など、
スケールや趣の異なる水辺空間が骨格を形成している。
- ・雰囲気異なるエリアが重なり合い市街地が構成されている。

- 新大橋と松江大橋周辺エリアは、
- ・両岸のまちをつなぐ重要な場所
 - ・同時に、まちと水辺をつなぎつつ
大橋川沿いの水辺のつながりを形成することも重要

松江城・塩見縄手エリア

小泉八雲旧居をはじめ武家屋敷などの江戸時代からの趣を残した建物が堀に面して現存し、城下町らしさが残るエリア。市の伝統美観指定地区。

- | | |
|----------------|--|
| 松江城 (1611 年) | 5 層 6 階、高さ約 30m の望楼式天守閣。2015 年 7 月に国宝指定。 |
| 興雲閣 (1903 年) | 松江城二の丸に建つ木造の洋館。明治末期、天皇の御宿所として建てられ迎賓館として使用されていた。県指定文化財。 |
| 小泉八雲旧居 (ヘルン旧居) | 小泉八雲 (ラフカディオ・ハーン) が約 5 ヶ月過ごした伝統的な竹まのの家屋。国指定史跡。 |
| 小泉八雲記念館 | 小泉八雲の遺品を含む 820 点が展示されている記念館。 |
| 武家屋敷 | 築 200 年以上経った伝統的な竹まのの家屋。市指定文化財。 |
| 茶室 | 7 代藩主の松平治郷がもたらしたとされる松江の茶の湯文化。明々庵や観月庵などの茶室が残り、現在も茶事を楽しめる。 |

白瀧・寺町エリア

江戸期に配置された寺や古くからの商店街 (白瀧本町・天神町) が現在も多く残るエリア。観光協会のまちあるきルートにも設定されている。

湖畔エリア

宍道湖を中心として、湖畔に公園や美術館などのびやかな空間が広がるエリア。宍道湖に沈む夕日を眺めるスポットが点在する。

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| 公園・緑地 | 千鳥南公園、末次公園、白瀧公園、岸公園など。 |
| 県立美術館 (1998) | 水との調和をテーマに絵画、工芸・写真を展示。菊竹清訓設計。 |

京橋川エリア

城下町松江の中心市街地に位置し、江戸期には武家地や町人地が配置されたエリア。松江市では 1980 年代から環境整備に取り組み、堀川の再生や京店商店街の活性化事業を実施した。

- | | |
|--------|--|
| カラコロ広場 | 1992～95 年にかけて堀川沿いの親水空間が整備されるとともに、堀川めぐりの発着場やイベント会場の広場として誕生した。 |
| カラコロ工房 | 2000 年に旧日本銀行松江支店 (長野宇平治設計) の建物を生かし、新たな観光拠点施設として整備された。 |

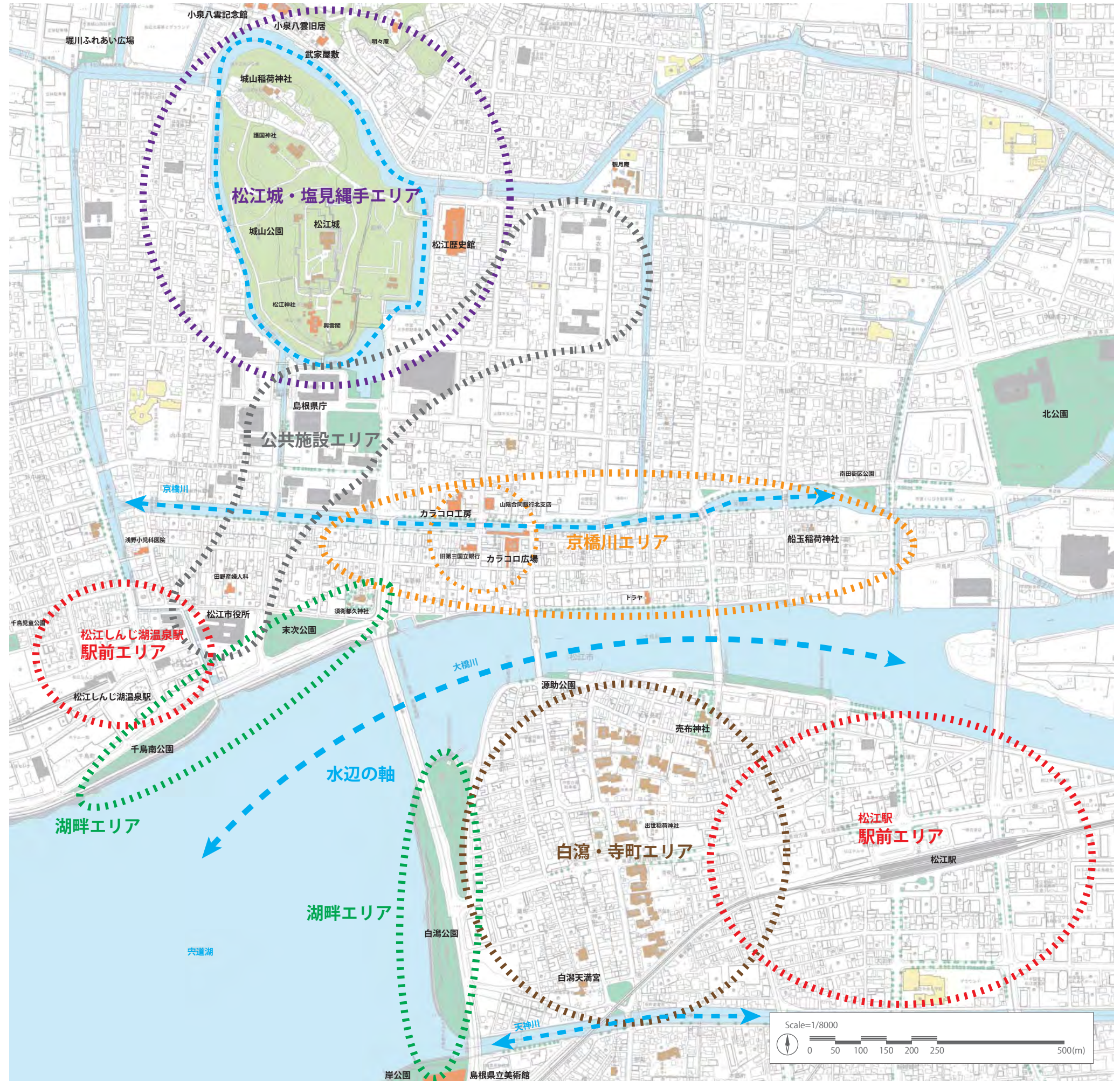
駅前エリア

松江には、それぞれ特徴の異なる 2 つの駅前エリアが存在する。

- | | |
|-----------|--------------------|
| 山陰本線松江駅 | 明治 42 (1909) 年の開業。 |
| 松江しんじ湖温泉駅 | 昭和 3 (1928) 年の開業。 |

公共施設エリア

島根県庁や松江市役所など官公庁が集積したエリア。明治維新以降に二の丸や三の丸などに官庁街が形成された。



主な特徴

- ・内環状道路の位置づけである宍道湖大橋・くにびき大橋には自動車が集まっている。
- ・松江大橋は、**自動車が特に少なく、バス・歩行者・自転車が多い。**
- ・新大橋は宍道湖大橋やくにびき大橋と比較すると、**自動車の通行がやや少ない。**
- ・昼間の歩行者は少ないが、**夜間の通行は多い方である。**

→ 松江大橋ほどではないが、**新大橋も歩行者等の利用は一定量ある。**

- ・公共交通のバスやレンタサイクル、遊覧船に加え、まちあるきルートも多く設定されており、多様な交通モードでまちなかを回遊できる。

→ 新大橋周辺においても、**まちあるきルートとの動線のつながり**を考慮する必要がある

新大橋の通行量の比較

○平日	(7-19時)	
	12時間	24時間
車	19,549	24,970
歩	495	935
転	523	756
	歩/車=2.5%	歩/車=3.7%
●休日	車	14,853
	歩	778
	転	821
	歩/車=3.2%	歩/車=5.2%

(H22 年度道路交通センサスより、単位：台・人)

電車

- ・松江駅 …JR 山陰本線 (明治 42 年開業)
- ・松江しんじ湖温泉駅 …一畑電車北松江線 (昭和 3 年開業)

バス

- ・市営バス …北循環、南循環を主要路線とし、計 8 路線を運行
- ・一畑バス …松江市内と周辺都市を結ぶ計 7 路線を運行
- ・ぐるっと松江レイクライン (市営バス) …松江市内の主要観光地を巡る路線

遊覧船

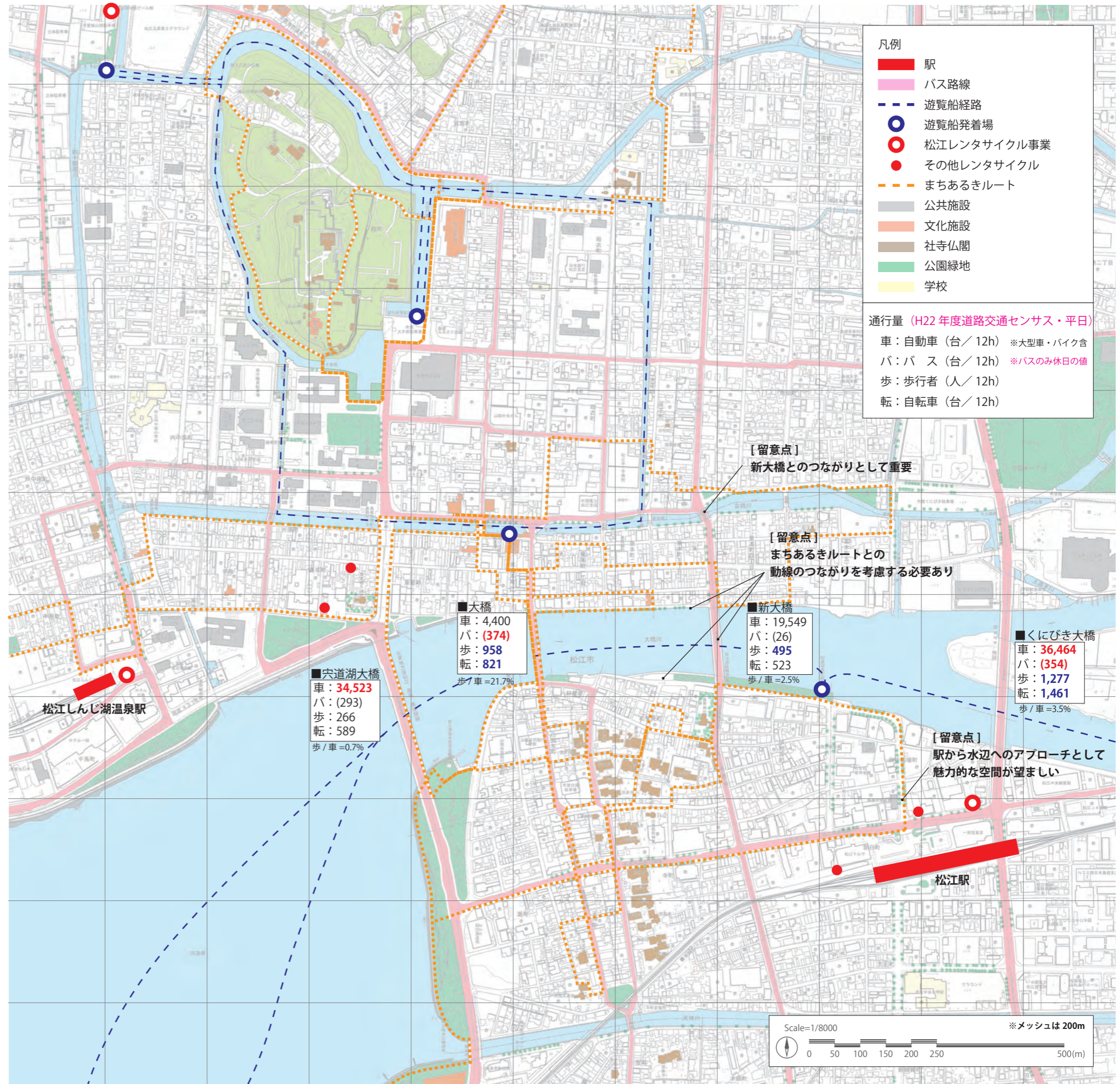
- ・ぐるっと松江堀川めぐり …全長は約 3.7km、遊覧時間は約 50 分で堀川、京橋川を巡る
- ・宍道湖観光遊覧船 …大橋川から宍道湖、嫁ヶ島、松江しんじ湖温泉などを巡る

レンタサイクル

- ・松江レンタサイクル事業 …松江駅、松江しんじ湖温泉駅、堀川地ビール館の 3 箇所の拠点施設で貸出・返却が可能
- ・その他レンタサイクル …他にも市内にレンタサイクルのスポットが点在

まち歩きルート

観光協会が設定しているまちあるきルート。名所旧跡に加え、古くからある商店、路地裏、道端の石柱や地方独特の瓦屋根、建物の塀、そこに住む人々を見守ってきた橋など、住民の暮らしや歴史を感じられるルートを地元ガイドの案内付きで回ることができる。



主な特徴

- 河川景観
- ・大橋川は松江市の「景観重要公共施設」として位置づけられている
 - ・「水と人、川とまちの近さ」という特徴がある
(松江市景観計画 別冊：大橋川景観形成計画, 上流部ゾーン基本方針より)
 - ・幅広のまっすぐな河道であり、まわりは高い建物が少ない
→ 水平方向にのびやかな風景が広がっている
- まちなみ
- ・両岸ともに、戸建ての建物が並ぶ飲食店の多いエリア
 - ・南北で街の性格や水辺との関係性がやや異なる
- 橋 梁
- ・内環状道路の 2 橋（宍道湖・くにびき）と比べ、
新大橋と松江大橋は、橋長が短くて高低差も少なく渡りやすい
 - ・まちなみとも調和したシンプルかつヒューマンスケールの橋である



- 橋北側
(東本町)
- ・古くからの建物が残る
 - ・新店舗も見られるが、比較的落ち着いた飲食店が並ぶ
 - ・堤防道路の幅員が狭く護岸も低い → まちと水辺が非常に近い



古くからの建物を利用した店舗 (objects)



古くからの建物を利用した店舗 (HOME SWEET HOME)



堤防道路も広くなくまちと水が非常に近い



- 橋南側
(寺町・白潟本町
伊勢宮町・天神町)
- ・かつての色街の風情を残しつつ、新しい現代的な飲食店が並ぶ
 - ・背後には、かつての商業の中心であった白潟本町、新興の商業地である駅前エリアがある
 - ・北岸とくらべ堤防道路も広く、港湾用地がある
→ まちと川の間水辺にオープンスペースが存在する



現代的な飲食店 (IMAGINE COFFEE)



色街の風情 (伊勢宮町)



まちと川の間水辺にまとまった水辺空間がある

主な特徴

- | | |
|------|--|
| 橋 上 | <ul style="list-style-type: none"> ・歩道は広くはないが、車道との境界に柵は無く、やや広い印象 ・上下流の水面が眺められる水辺に開いた橋上空間となっている |
| 橋詰空間 | <ul style="list-style-type: none"> ・両岸ともに民地と道路に高低差がある ・北岸側では、民地との間に階段や道路が入っている ・南岸側では道路が立体交差している → 平面交差化する計画 ・両岸とも、橋詰における民地との高低差がある ・スムーズな動線が確保されていない ・現況の擁壁に、自然石の石積みが利用されている ・南岸側には、緑陰のある人のための空間が整備されている |



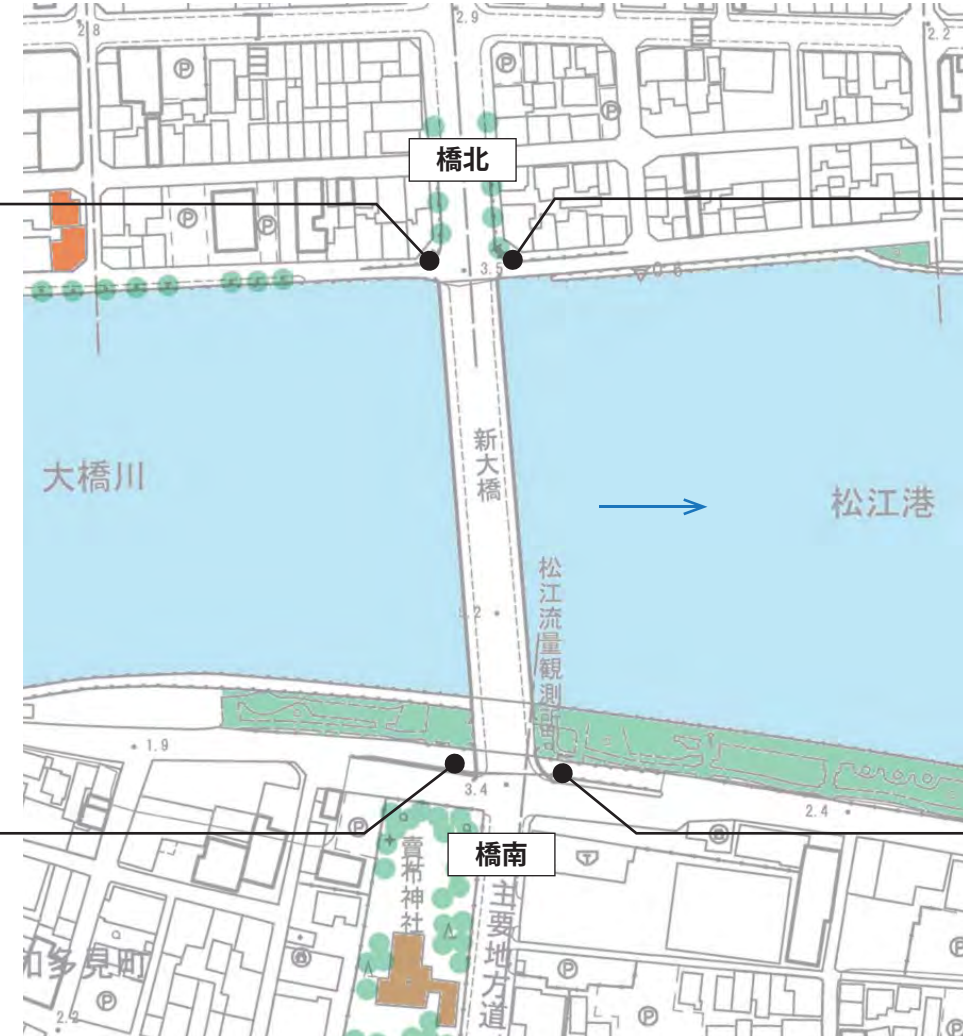
上下流の水面が眺められる水に開いた橋



歩道は広くないが、やや広い印象のある橋上空間



橋北上流側の橋詰



橋北下流側の橋詰



橋南上流側の橋詰



橋南下流側の橋詰



参考 新大橋周辺におけるイベント利用

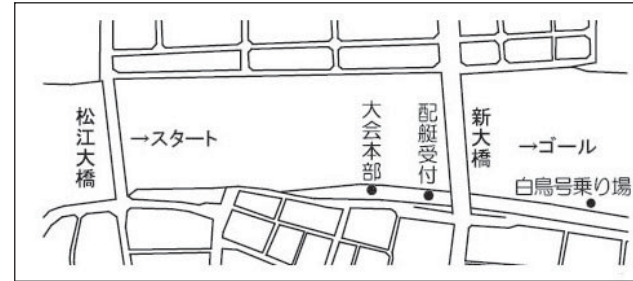
新大橋周辺にて開催されている次の二つの主要イベントについて
その概要や利用状況をまとめる

いずれも ・大橋川を舞台とし、橋や川岸は観覧スペースとして利用
・松江大橋から新大橋までを一体的に利用

① 市民レガッタ

- ・毎年夏場 2 日間開催
- ・松江大橋スタート→新大橋をくぐるコース設定
- ・新大橋の南岸上流がメイン会場
(本部・露店など)

出典：市民レガッタ公式 website



写真はすべて市民レガッタ Facebook より

新大橋の南岸上流詰



新大橋の南岸上流詰



新大橋の上流より



② 松江ホーランエンヤ

- ・「松江城山稲荷神社式年神幸祭」の通称
- ・日本三大船神事
- ・約 370 年前より続く
- ・10 年に一度開催 (次回は平成 31 年)
- ・約 100 隻の船行列
- ・河川内をグルグルと旋回するような順路

■ 概要説明 (観光協会 website より引用)

祭りの期間は 9 日間。城山稲荷神社から御神輿を船団でお運ぶ「渡御祭」と阿太加夜神社本殿にお迎えし、七日間の大祈禱が行われるその中日に権伝馬踊りが奉納される「中日祭」、再び船団によって城山稲荷神社へと御神輿をお送りする「還御祭」の 3 つの祭礼が期間中行われます。

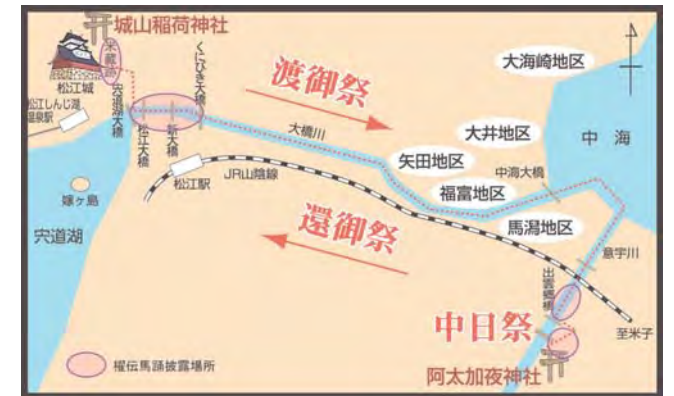
渡御祭と還御祭は、五大地と呼ばれる地域の人々が一同に集まり、色とりどりに装飾された各地区の権伝馬船の総数は 100 隻以上にも上り、大船行列を作る壮大な姿が楽しめます。

写真：平成 20 年伝統・ホーランエンヤ協賛会 website



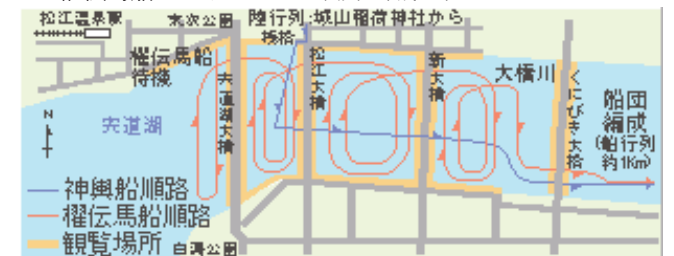
■ 全体ルート

出典：ホーランエンヤ伝承館 website



■ 権伝馬船ルート

出典：平成 9 年ホーランエンヤ website



写真：平成 21 年ホーランエンヤ website

右下は平成 9 年フォトコンテスト入選作 (～湖上の花～ 恩田 勝吉)



参考 関連計画について

1) 松江市 - 都市計画マスタープラン

<概要>

・基準年：平成 20 年度 → 目標年：平成 29 年度（平成 24 年度見直し）

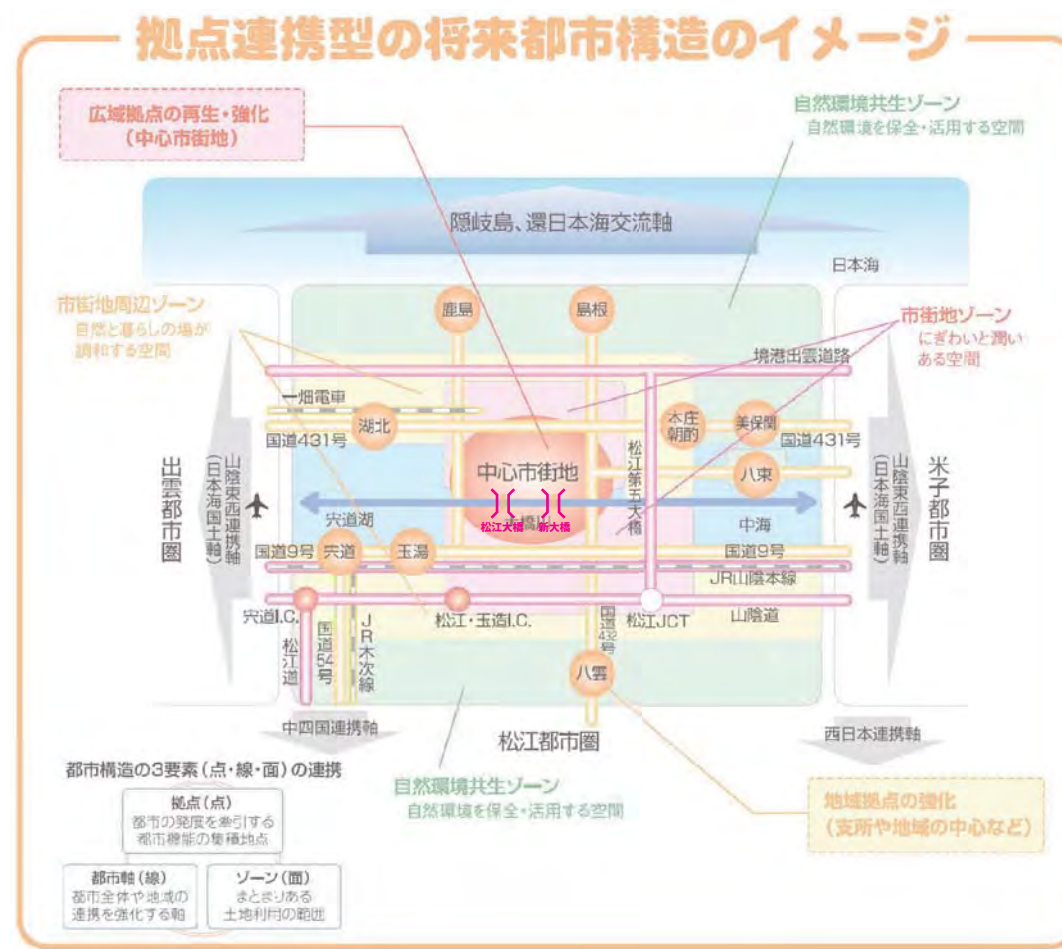
・まちづくりのテーマ：

水と緑とやさしさ 活力あふれる都・松江

・地域別のまちづくり方針： 右図参照

・拠点連携型の将来都市構造：内環状線の内側が中心市街地

▶ 松江大橋と新大橋とで中心市街地がつながる



(本資料作成者が一部加筆)

■地区別のまちづくり方針

中央地域

自然景観や歴史的景観等を保全・活用し、魅力的な都市景観の創出・拡充を図ります。また、都市機能の充実強化などにより中心市街地の活性化を図ります。



穴道湖夕日スポット 塩見橋手 (紀家屋敷)

2) 松江市 - 2 期中心市街地活性化基本計画

(平成 25 年 3 月)

<概要>

・第 1 期 (平成 20 ~ 25 年度) の成果

→ まちなかに着実に人が集まりつつある

・まちづくりのテーマ

「住んでよし、訪れてよしの“松江らしい”まちづくり

～ 住み続ける暮らしの中に流動性を生み出す～

・基本方針

1. まちなかを楽しむ「観光・交流」
2. まちなかが賑わう「近隣集客拠点」
3. 住みたい・住み続けたい「まちなか居住」

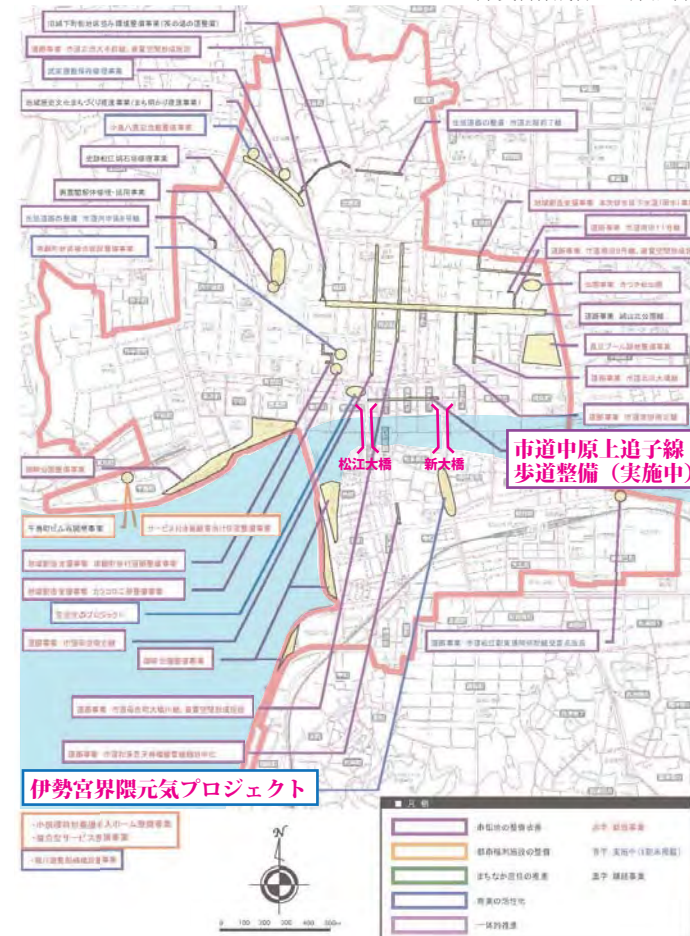
・基本方針 1 の文中に、「まち歩き観光」が 2 期より追加された「中心市街地の魅力と松江の歴史的資産等の魅力を活かしたまち歩き観光、滞在型観光を展開し、国内外からの多くの観光客が訪れる賑わいのあるまちづくりを推進します」

・実施事業 (ハード・ソフト) が計画されている

▶ まち歩き観光の重要性が高まる

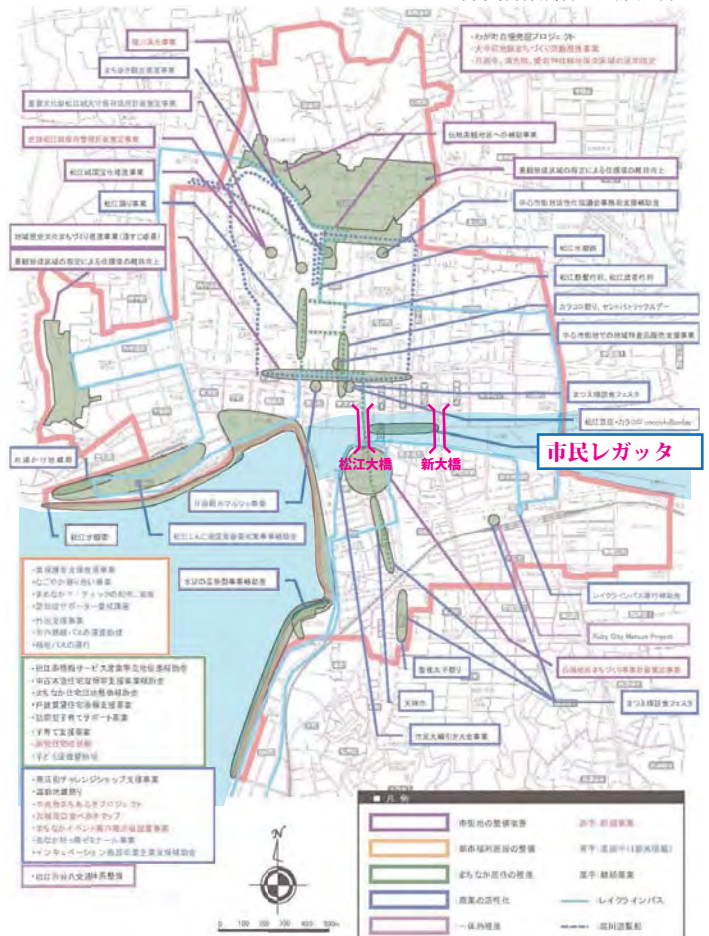
■ハード事業実施箇所図

(本資料作成者が一部加筆)



■ソフト事業実施箇所図

(本資料作成者が一部加筆)



参考 関連計画について

3) 松江市 - 安心・安全歩行空間創造プラン

(歩道整備計画、平成 25 年 3 月)

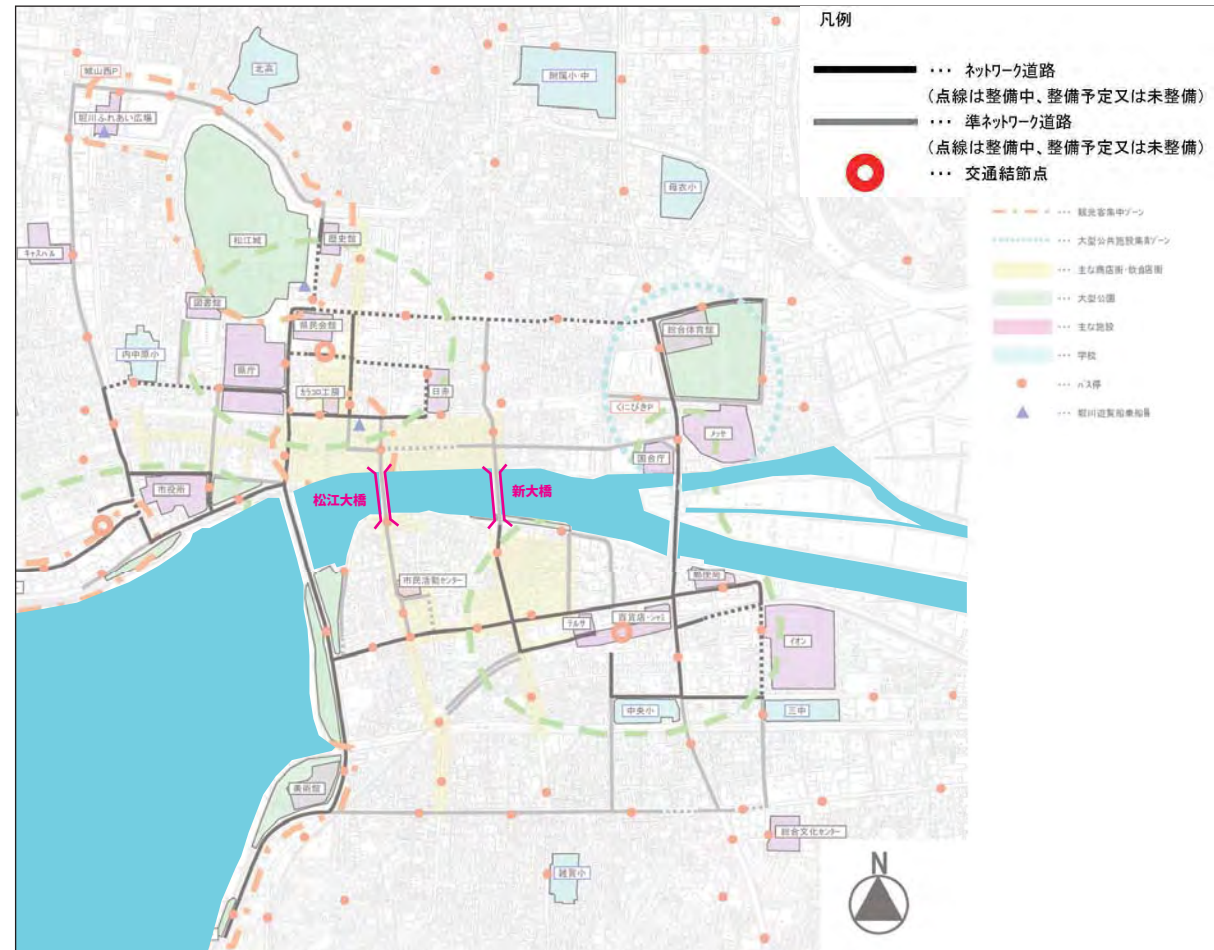
<概要>

- 第 1 次～第 3 次 (H13～H25) をベースとした第 4 次計画
- 第 4 次計画にて新たに追加された主な特徴
 - 未整備区間の重点整備
 - まちあるき観光ルート、中心市街地の美装化
 - 自転車施策の重点化
 - 生活道路における通過交通抑制 (交通規制や物理的デバイスを活用)
- 歩行者ネットワークでは、内環状線にあたる 2 橋が「ネットワーク」、**松江大橋・新大橋は「準ネットワーク」の位置づけ**となっている
- 松江大橋・新大橋は、自転車ネットワークにも位置付けられている

まちあるき観光、自転車ネットワークの重要性

■歩行者ネットワーク道路

(本資料作成者が一部加筆)



■自転車ネットワーク道路

(本資料作成者が一部加筆)



4) 松江市 - 景観計画・大橋川景観形成計画

<概要>

- 景観計画 (H19.3) の別冊として「大橋川景観形成計画」(H25.3)
 - 河川改修関連計画の検討後に、その具体内容を反映させる形で追加
- 景観計画 基本理念
 - 自然・文化・歴史が呼応する 松江の風景
 - 住む人が誇りと愛着を感じ訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり
- 大橋川=景観重要公共施設 ※橋梁は位置付けられていない

河川沿いは景観計画上も非常に重要な位置づけ
水と人、川とまちの近さを活かした景観形成

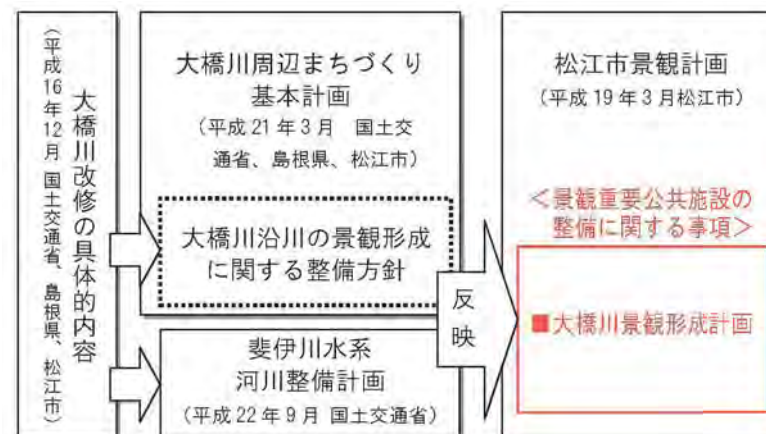
■新大橋の位置する上流部ゾーンの基本方針

<上流部ゾーン>

基本方針

- 小泉八雲の愛した「日本の面影」・静けさを有する空間と、人々が集い・行き交う賑わいの空間が調和した新たな時代にふさわしい景観形成を行う。
- 松江大橋や柳並木周辺の風情に配慮した景観形成を行う。
- 国際文化観光都市松江にふさわしい優れた視点場の保全と創出を行う。
- 水と人、川とまちの近さを活かした景観形成を行う。

■大橋川景観計画の位置づけ



参考 関連計画について

5) 大橋川 河川改修関連

<概要>

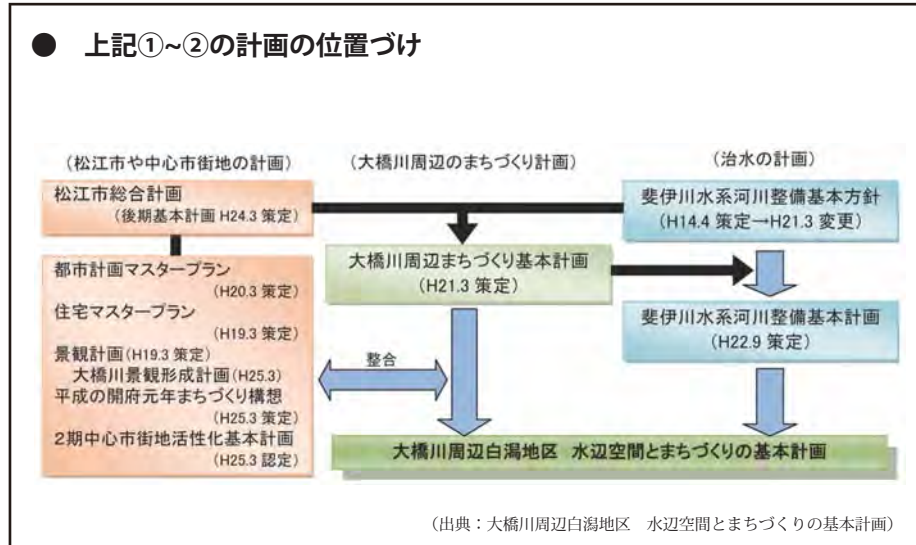
・国・県・市合同で計画

- ①大橋川周辺まちづくり基本計画（平成 21 年 3 月）
- ②大橋川周辺白濁地区 水辺空間とまちづくりの基本計画（平成 25 年 4 月）

・市民との取り組み（松江市政策部）

左記①の基本計画に提案されている利活用の具現化を図るために、実際に水辺回遊の社会実験や、ワークショップなどをおして、市民とさまざまな利活用の方法を検討する取り組みがなされている。

計画や取り組みの最新情報を参照のうえ、特に橋詰における整合性を確保する必要あり



●水辺・水面利活用の取り組み

(出典：大橋川周辺水辺回遊公園 かわら版第 2 号、平成 26 年 3 月)

●まちなかのミズベ

まちなかのイベントが満載だった10月10日～12日、16日～18日の6日間、北と南のまちをつなぐ大橋川渡船が運航し、375名が乗船されました。また、夜間限定で水辺の飲食店が出店した大橋南詰と伊勢宮の乗船場には、497名が来場されました。

夜景を満喫しました!

夜のミズベも楽しい!

飲食 飲食

渡船

矢田渡船観光、白濁本町のみなさん、松江総合ビジネスカレッジ、松江商工会議所青年部、松江観光協会

□新大橋に関わる要点の整理（資料 3 より）

A 松江の都市形成

- ・市街地の拡大とともに、橋が新設されてきた
- ・古くからのまちの骨格が色濃く残っている

B 新大橋の変遷

- ・新大橋は初代、二代目ともに「多径間の桁橋」である（大橋川の他の橋も同様）
- ・どちらも低くシンプルな橋であり、水辺ののびやかな風景を構成している

C 現況の主要施設配置

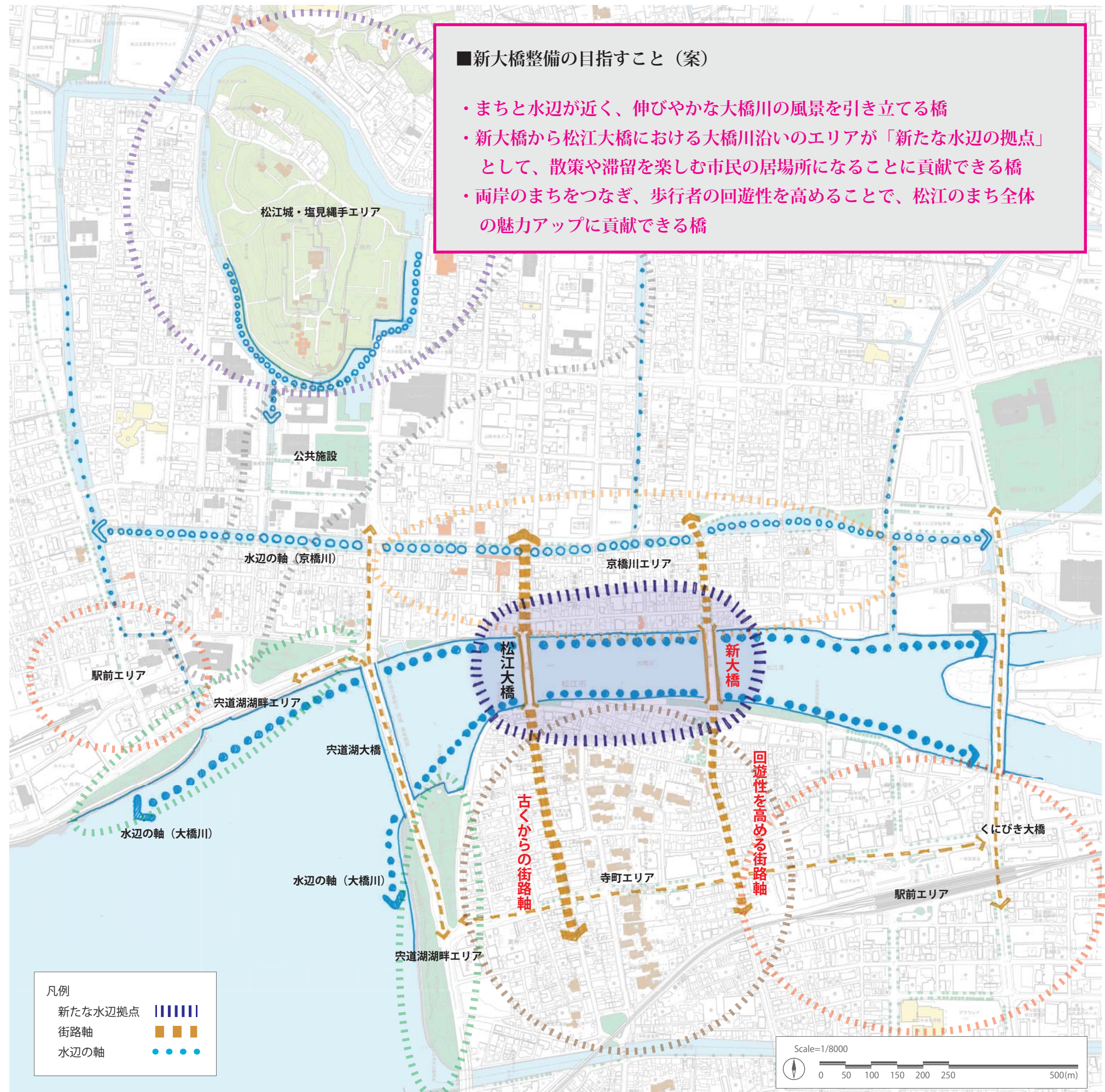
- ・新大橋と大橋周辺エリアは、**両岸のまちをつなぐ重要な場所に位置する**
- ・同時に、**まちと水辺をつなぎつつ大橋川沿いのつながりを形成することも重要**

D 現況の交通状況

- ・松江大橋ほどではないが、**新大橋も歩行者等の利用は一定量ある**
- ・**まちあるきルートとの動線をつなぐ**を考慮する必要がある

■新大橋整備の目指すこと（案）

- ・まちと水辺が近く、伸びやかな大橋川の風景を引き立てる橋
- ・新大橋から松江大橋における大橋川沿いのエリアが「**新たな水辺の拠点**」として、散策や滞留を楽しむ市民の居場所になることに貢献できる橋
- ・両岸のまちをつなぎ、歩行者の回遊性を高めることで、松江のまち全体の魅力アップに貢献できる橋



E 大橋川周辺の特徴（資料 3 より）

- | | |
|------|---|
| 河川景観 | <ul style="list-style-type: none"> ・大橋川は松江市の「景観重要公共施設」として位置づけられている ・「水と人、川とまちの近さ」という特徴がある ・幅広のまっすぐな河道であり、まわりは高い建物が少ない
→ 水平方向にのびやかな風景が広がっている |
| まちなみ | <ul style="list-style-type: none"> ・両岸ともに、戸建ての建物が並ぶ飲食店の多いエリア ・南北で街の性格や水辺との関係性がやや異なる |
| 橋 梁 | <ul style="list-style-type: none"> ・内環状道路の 2 橋（宍道湖・くにびき）と比べ、
新大橋と松江大橋は、橋長が短くて高低差も少なく渡りやすい ・まちなみとも調和したシンプルかつヒューマンスケールの橋である ・歩道は広くはないが、車道との境界に柵は無く、やや広い印象 ・上下流の水面が眺められる水辺に開いた橋上空間となっている |
| 橋詰空間 | <ul style="list-style-type: none"> ・両岸とも、橋詰における民地との高低差処理とともに、
スムーズな動線確保が課題である ・南岸側には、緑陰のある人のための空間が整備されている |

■新大橋整備の目指すこと（案）

- ・まちと水辺が近く、伸びやかな大橋川の風景を引き立てる橋
- ・新大橋から松江大橋における大橋川沿いのエリアが「新たな水辺の拠点」として、散策や滞留を楽しむ市民の居場所になることに貢献できる橋
- ・両岸のまちをつなぎ、歩行者の回遊性を高めることで、松江のまち全体の魅力アップに貢献できる橋

【新大橋に求められること】

『松江らしさ』や『大橋川原風景』を活かすため、新大橋には以下のようなことが求められると考えられる

- ① 水平方向にのびやかな「河川景観」との調和
 - ・水辺やまちの風景が主役となる橋であること
 - ・上部に高い構造を出さないシンプルな形状であること
 - ・できるだけ縦断勾配が低く、左右対称に近い橋梁であること
- ② 「ヒューマンスケール」の橋であること
 - ・構造物自体のボリュームが小さく抑えられていること
 - ・周囲の構造物（大橋、低い護岸、戸建ての建物など）と相性が良いこと
- ③ 「歩行者利用」への配慮
 - ・できるだけ縦断勾配が低く、歩行者・自転車が渡りやすいこと
 - ・歩行者が安心して快適に利用できるような空間とすること
- ④ 「人と水、川とまちの近さ」を実現する橋面および橋詰空間
 - ・橋詰における取り付き高を低く抑え、まち～水辺のスムーズな動線を確保すること
 - ・水辺を身近に感じられるような、水辺に開いた空間とすること



写真：ホーランエンヤ伝承館 website